

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
91	大峰山 八経ヶ岳, 弥山	67/100	1,915

登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
2009.4.29 平成21年		63	
メンバー	主催 クラブツーリズム		
単独	複数	ガイド	ツアー
		彰も参加	人数
			リーダー
			岸下氏



八経ヶ岳は大峰山系の最高峰で奈良県の最高峰でもある。世界遺産となって注目を浴びている吉野と熊野を結ぶ150kmの奥駈道にある。山岳信仰としての奥駈や霊場巡りの旅をする人は、海外ではフランス各地からピレネーを越えてスペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラ間800kmに及ぶ巡礼路を歩く人々と共通点があると思う。信仰、祈願、求道、スポーツ、健康...色々な動機や目的があるが、更には「自分探し」、「自己観照」がある。百名山を目指す人はそのプロセスで同じ心境に至るのではないかな。私は歩きながら日常を振り返り、反省したり新たな目標を見つけて来た。意図せずに「自己観照」の旅となり、元気に繋がっていた。

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
92	大山	4/100	1,709

登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
1971.7.25 昭和46年		25	大山寺レイクホテル 前泊
初回の登頂日	1971.7.25 25歳で登った。ガスと強風で確たる山頂を見失ったがほぼ弥山は登頂、3/100とした。当時の記録が見あたらないので2013年の登頂分を記載。		
メンバー	主催 毎日新聞旅行		
単独	複数	ガイド	ツアー
			人数
			リーダー
			稲田氏

コース	コース
毎日新聞社前7:23⇒10:45登山口11:05⇒14:25弥山 14:50⇒17:20登山口17:42⇒21:15梅田 歩程6:15 7.5km 11.2km 標高差941m	

四方から山容が見える山は独立峰が多く、富士山のような円錐形で変化に乏しいが大山は違う。東西方向から見ると富士山だが、南北方向からは亀裂噴火でこうなったのか、立山の様に長い稜線になり、全く別の山に見える。大阪からの日帰りツアーのため、信仰の山文化が漂う大山寺の街を素通りだった。これでは大山の半分しか観ていない。”文化性”のあるツアーも増えるといい。

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
93	剣山	30/100	1,955

登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
1999.5.19 平成11年		53	
メンバー	主催 京阪交通社		
単独	複数	ガイド	ツアー
		橋本・田中氏 同行	人数
			リーダー

コース	コース
京橋OBP(バス)7:05⇒明石大橋⇒12:00見ノ越(リフト) ⇒西島神社12:30⇒13:15山頂13:45⇒14:35次郎塚⇒ 15:49西島駅⇒16:30(リフト)見ノ越⇒21:45京橋OBP 歩程3:19 7.5km 標高差9245m	

石槌山と並ぶ四国の信仰の山。木道が整備されていて観光ハイク並みのツアーだった。リフトを使って290m上がってから245m登る楽々登山となったが、楽しめた分で頂上より次郎塚までの往復2時間足を延ばすことができた。丹沢や大菩薩峠を思い出すようなミヤマクマクサの尾根道は四国を見降ろす快適な展望路だった。男性的な石槌山と対照的な優しさが際立つ。山の個性を体感できるのならば標高差にこだわらざる所以は無いのだろう。

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
94	石鎚山	24/100	1,982
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
1997.8.2 平成9年		51	2020/8/1 船中泊
メンバー	主催・人数不明	同行の田中氏が下山で膝痛を発症、帰りのバスに大きく遅れた。途中で大きく遅れた人は居たが、田中氏の遅れを理由に入浴が割愛された。気まずい思いだった。	
単独	複数	ガイド	ツアー
			田中氏同行
コース	8/2	6:00伊予港バス⇒土小屋9:15⇒二ノ鎖、三ノ鎖⇒11:40弥山・天狗岳⇒15:45土小屋 <歩程6:30 標高差458m>	
交通手段	往路:8/1 大阪南港 22:00フェリー	現地:8/2バス	往路:8/2松山JAL⇒開空⇒JR

煩惱が消え  
願いが叶うと  
云われる四  
国八十八か  
所の霊場巡  
拝。私の義  
兄は三周も

巡ったが果たして煩惱は消えたのだろうか。山岳信仰は険しい山道を登り降りするので雑念の湧く余裕など無い。石鎚山には一ノ鎖から三ノ鎖まで3か所落差のある垂直の鎖場が待っている。それぞれ30m、65m、68mもある。今回は土小屋から往復するルートで、二ノ鎖と三ノ鎖にアタックした。一人で来たら躊躇して巻き道を選んだかも知れないが、前の人に登り、すぐ後がつづくツアー登山では迷う余裕もなく女性たちもすぐに鎖に取り着いた。鎖は縄梯子状に四つ目に編んであり登り易く、楽しいクライミングとなったが私に続く女性は頭が私の尻に当たっているのに無言でグイグイと押し上げて来た。恐怖心か興奮状態にも見えた



山番号	山名 (別名)主峰久住山	登頂順	標高M
95	九重山	52/100	1,787
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
2001.11.11 平成13年		55	
メンバー	11/9博多、ターミナルH。		
単独	複数	ガイド	ツアー
			11/10大分泊、11/110九重山⇒大分AP⇒大阪
同時登頂百名山	別々登頂	縦走登頂	
		11/10阿蘇山より	
コース	牧ノ戸峠9:17⇒11:20山頂⇒13:10牧ノ戸峠 <歩程3:53 9.6km 標高差457m>		
交通手段	往路:11/9 ANA	現地:10/10 JR TAXI	往路:11/11バス、ANA ロープウェイ11/11JRバ

単独行でバスを利用する場合、便数や道路状態で登山時間に制約が生まれる。今回は紅葉見物で渋滞し予定の電車に乗れなかったが、何とか航空便には間に合った。



九重連山の主峰が久住山となる。牧ノ戸峠までバスで上がり、そこから山頂までの標高差は僅か457mだが、ひと気が無いので楽をしようとして頂上近くにザックを置いて登った。戻ってみるとザックの蓋が開いていて、中にあった弁当のパンが袋ごと無くなっていた。猿は開けられるだろうか、猿は勿論人も見あたらなかったが…。幾つか有る山のいミステリーの一つだ。

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
96	祖母山	55/100	1,756
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
2002.6.8 平成14年		56	記憶や印象が薄い山がいくつかあるが祖母山もその一つ。私は”コト”は覚えているが”モノ”は忘れやすい性質なのだろう。
メンバー	主催	6/7.8 フェリー泊	
単独	複数	ガイド	ツアー
			人数 橋本氏、大谷君と参加
コース	6/8	6/8 6:00大分港	
コース	6/8	8:10日平尾登山口⇒11:00国見峠⇒11:52頂上12:13⇒15:10登山口⇒18:40出航 <歩程6:00 標高差1166m>	
	6/8	⇒6/8 6:50大甲アイランド	
交通手段	往路:6/7大甲アイランド よりダイヤモンドフェリー	現地:バス	復路:6/8大分港より⇒ 6/9朝大甲アイランド着

会社の元同僚で独立後は良き協力者として長い付き合いの橋本氏と、私の部下の大谷君の3名で夜行フェリーを使う祖母山登山ツアーに参加した。乗船前に食料と酒を調達、出航後甲板で車座になって瀬戸大橋をぐくり、夜景を見ながらの宴会となった。しかし場所が悪く、煙突から排出される煤の洗礼を浴びる事となり、あえなくレストランに退散となった。登山開始後、リタイアする人は国見峠で待ってもらう事となった。山に馴れないメンバーが居る場合は往復するコースが無難だ。

